



清江雜錄
卷一

口 9
1707



ちふし得る貴國に隠れ吾移藏やふふ致文言
 出は法用捨る事い先つ今やらのハ上天子王侯
 の首貴なるより下ハ山陞細民も昇賤なるまで
 世は生るものにして其後教とやあると人とな
 立の事い出さる赤子のうちハ涙と涎とほぐされ
 れハ母と抱ふは父母がいたきかゝってひたひ
 かりて乳をぬく乳をいうそとせ何つら
 かりてすか——七夜のうちかちをぬりぬる
 能中るを中夜もほ——をふふそそ理

世評をいふと数に相目も是一身もすくも
 まういふは御きい御き相本はすくも
 才を神也寄信いひ給のふがらしむくも
 中習いも月日を指てハのさふとあがせ花を
 う川いあふとあふくもふく大はふハと中ゆせ
 ふあふくもふくもふくあふくもあふ
 功もす時のも教へ中といふもあふ
 く成長いふくも中ふくもあふ人中
 立文く自ふくもあふくもあふくもあふ

他國にも所越他人の交りとも度く知し堪忍用
捨ちも知し一男ひく飢渴に難義をも身工更け
人情の存存人事の苦樂をも亦一なり賢者ある
く知て道を知り多し教道指南と知り更て古今
の世の要要危なき道程もく令得侍身小漸宜
福も得しはる自然と人者信用とて道に於て名
譽の人を成るる賤のよりく之を位貴人の前も
伺候し治國安民の道も知りいれおれりる
は實に知る賤も作業よても秘傳古傳のよりく

いそぎ道のものよりく上り知悉くおれりる
今もく候と知るくやん古くの聖王聖君よりく
胎教よりく懐妊よりく教を授け生進おれり
日より賢相輔佐の大臣忠臣馬教し侍臣在在
後より並ひて起居勅諭おれりし一と陳を
して下りの父母兄弟のやうなるものよりく
そなたを世にぬきよりく寸分の他防もく教へ
そなたよりくせりるおれりるく聖王賢君より
知しよりくしるるを多し得る

乃伊却年より千三年力苦を以て後以て天下
 の王と成るに儀も後も後も伊人ありて事
 伊人よりかくもく目出な伊代より伊人終伊人
 小正乃采山ありて伊人乱世の時と推し考へて
 伊人國主伊人の面て其先祖より伊人傳へる
 相もく事苦強強より儀人言語絶しりて事
 伊人

□の所却来り御幸苦を御書画に印つけを
あつて四海太平の一統たり乃袋と包と力力頼

[illegible]

と相成ふ一も打ちて一も成る一も古波行
と云ふて古波行と相成ふ人々世々人々も知年
より志バく陳将の臣小仕出さるも世に成る
前を成る成る人々つても明る成る成る
あるも成る成る人々世々一も成る一も成
り成る成る古今一書成る成る一聖賢の君と臣
と成る成る君ハ成る成る成る成る成る成る
一も成る成る成る成る成る成る成る成る
事ハ成る成る成る成る成る成る成る成る

や成る成る成る成る成る成る成る成る
け成る成る成る成る成る成る成る成る
と成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
人成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る成る成る

下勝の身より遠い君臣交はし圍院せし
新民の上より立る身より下より振
押付押下して振振いの中訳は振振
とゆい振振いかし振振いも振振い
ふはり振振い振振いその心振振い
別遠に相成り多しと振振い主人を
振振い振振いの主より振振いと
侍臣を振振い振振い振振い
君に振振い振振いと振振い振振い

も中いる(常坐の振振い)
さ色振振いの心より人より
いふいふと振振いと振振いと
ひふふの心より人より
新民の臣と中いふ振振いと
の家初より人より
いふいふ(常坐の振振い)
者いふ振振いと振振いと
の心より人より

終ふ道も主人を今なきを分はるるも我
 る米人々を思ふを亦くすべしと云ふ世よ
 する事とやあり天子の御威勢もその
 以て出づる御家中に事もなき御事なり
 ると戸政をなすに御事なりと云ふ者
 有る事なき事なり時人の御事なり
 る事なり或主人生得學問嫌ひを常
 らず出り事なり事なり理の事なり一
 家中に事なり事なり家臣に事なり
 事なり事なり事なり事なり事なり

多しとありしや道理を分りて中一光の中合ふと
 ちゝのりる儒者を招きて大学の講義を習
 中り取一坐りぬといふ退屈をぬきむは
 中り我目を解く事いふ事非難ひは
 相成講義と中一の人は大毒とてふ
 中り中一のりる道徳も海のり氣候等
 中りおとと中一のりる家の中迷或ふ大
 中り大臣とて新法いふ事一坐り
 中り中一のりる又或儒者を招き講義

乃其不即死又目之曰一ヤウキ甚也
 其心容子之生ト云者儒者少所拘礙
 リ非即死而面自リ返一向屈伸時もよく皆
 宗臣をも甚にちねまづ短くヤリ終と側下り
 其心やきし言能統一休セヤリ終と抑て面自リ
 するんぞ大儀ニエテあるは乃ち相成スレシ
 ありえとの儀を止むハ常ニ徳を以侍奉
 して其言知分ニ道理も合ふ事候ハ始終
 一色ノ終の主なりたれ由定る初めの儒者ハ

ことごとく自分毎年の私學の功を其
 咎切、向ふも今頃みだれ妙とて理をわづし
 從ふるそありしに新取といひてなれば耳に
 何事か、第一は誤りすなり。以て自道處りの後
 りも、此後儀は書後の讀者に定むべき者そ
 書面の過謬も彼も今頃の相も當をわづや
 うよすしとて誹し、是れはあつたはい近世
 分明より實に、言へりては、害し事、正
 しく、おきては、氣さう志し、他人の疑いにあは

とあるは陰陽を化し功を賜うてはるゝに成る
天子ハ諸侯を以て雇ひ四海を治るゝに國主
領主ハ家老諸役人を以て雇ひ領分の土地を
与へられ侍は汝仲買を雇ひ奉公の勤を
賜ふと云ふにちいさくまづ一人の心は
は一身の主なりて其を定むるに一つもさき
も所を以て又一つもさき所を雇ひた
るは是れ其の事なり古く今も名は武將
も勇力を多く雇ひ侍を一人ハ大家と云

は其の細公時武將の傍より其の事ハ陣
の戦ハおもしろけれは雇ひの事ハ義目なり
あると云ふに其の事ハおもしろと云ふなり
□ハ六十餘人の大名を以て雇ひしに其の
おもしろは太平を以て他は石を以て其の
べしと云ふ侍の教ハ常にも其の事ハ其の
相州相模の地を以て其の事ハ其の事ハ
いふに其の事ハ其の事ハ其の事ハ其の
其の事ハ其の事ハ其の事ハ其の事ハ其の

程の撰る才も成り既に書物に数あるものと思ふ
大概の事以上

追々得る意の月沙沙家半、学問の行ふべき事
に儀とある所の然る儒者で應に指南に程と成
ると思ふは多分の事同様に程の流儀もさういふ
所よりあるは一史程の事として當時の行のれや
程の学仁齊流祖来流、三流の内是非を及
史定まる上程の事あるは、後より程の老武
先賢先事、學術の事非を成りやういふ

ぐ、中候の中、程の撰る書物に一家の学と
思ふ所の今、何と云ふ一世の豪傑を各取見
みする事、中候、聖人等、世より今、是非
得るに勿論、さういふもの、長を用ひ短を
捨て、中候、利益、無く、学問、さういふ、事、
程の撰る、其の流、さういふ、学問、を、推す、事、
さういふ、義、さういふ、事、何流、さういふ、事、
今、何と云ふ、一、概、立、書、の、事、を、決、す、大、言、の、事、を、信、
度、く、是非、得失、を、詳、考、さういふ、事、其、流、義、の、ハ、

あるは、その標より、慢り、事古今曰、藝、その中、
聖人の徳家の行、法、四、宗、ある、一、宗、聖人の
其、定、言、以、佛、性、と、年、ま、る、万、象、の、儒、者、の、言、論、
釋、の、言、法、の、法、成、徳、行、亦、そ、う、振、り、舞、ひ、必、竟、
其、佛、の、修、行、の、法、佛、性、を、す、え、は、る、何、道、し、佛、
ち、う、性、生、の、法、の、儒、者、の、言、の、法、行、の、法、美、徳、
を、た、又、成、就、の、法、一、の、道、の、國、家、の、事、所、用、と、立、
ち、た、ち、う、も、ち、其、人、の、徳、の、法、の、法、を、成、る、
流、の、言、の、言、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

已く、其、法、の、法、佛、性、の、中、唱、り、る、他、派、を、排、棄、の、法、
其、儒、者、の、法、の、法、心、を、す、え、は、る、何、道、し、佛、
は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
人、の、言、の、言、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
佛、の、人、を、師、長、の、法、を、す、え、は、る、何、道、し、佛、
免、角、人、を、花、畑、の、牡丹、の、葉、の、法、を、す、え、は、る、
咲、交、り、の、法、の、法、は、は、は、は、は、は、は、は、
い、ま、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、

諸書廣く見ゆ古今の治亂興亡人情愛
怨工難^{コウ}過一^{コウ}望人を親切は導きをもふた^{コウ}
の^{コウ}多き^{コウ}もほふ^{コウ}善^{コウ}の^{コウ}人^{コウ}は^{コウ}多^{コウ}く^{コウ}
と^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}人^{コウ}を^{コウ}先^{コウ}所^{コウ}富^{コウ}中^{コウ}の^{コウ}師^{コウ}に^{コウ}定^{コウ}
め^{コウ}る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}見^{コウ}る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}
近^{コウ}く^{コウ}中^{コウ}に^{コウ}一^{コウ}原^{コウ}の大^{コウ}賢^{コウ}英^{コウ}才^{コウ}も^{コウ}
中^{コウ}に^{コウ}先^{コウ}賢^{コウ}と^{コウ}教^{コウ}化^{コウ}お^{コウ}し^{コウ}向^{コウ}ひ^{コウ}に^{コウ}成^{コウ}
る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}
不^{コウ}恭^{コウ}人^{コウ}が^{コウ}師^{コウ}長^{コウ}の^{コウ}は^{コウ}常^{コウ}を^{コウ}急^{コウ}め^{コウ}る^{コウ}言^{コウ}は^{コウ}る^{コウ}

奉^{コウ}仕^{コウ}の^{コウ}上^{コウ}

都^{コウ}に^{コウ}ふ^{コウ}る^{コウ}名^{コウ}に^{コウ}巻^{コウ}終^{コウ}

つた 婦 女 臣 上 卷

君候いまだ此弱年の内事貴公内忠誠なりと
所存いふはそは名譽の君と仰ぎに操りたまふ
所事今更なりとは誠心なりと仰ぎに操りたまふ
一國に治亂あり民の憂はたゞ君の徳に依り
り事不及なりと仰ぎに操りたまふ
うへく上より下へと仰ぎに操りたまふ
道理古今無き事なりと仰ぎに操りたまふ
拾ふとありと仰ぎに操りたまふ

惟君心を以て居るを我るを之上に内徳莫大と大
 功を以てありん今世を極く第一志願を以て人相を改む
 り給ふを重んず米穀を以て相ハ市代を建臣を成るを要
 相人君を徳を勉め真實心と自ら自己を善く好むを
 以て相を成るを以て外ハ其を以て其を真實心と自ら其を
 好むを勉めよくを以て事ハ其を非邪心と道理を自己ハ
 心と相とを以て相を成るを以て相成其是非邪心と境を自
 己の心とを以て辨（ハ道ハ學問より外に其を以て相を成るを
 の事宿早心上ニ明智明意を以て其を成るを以て辨を

[illegible]

がうへくはなすといひ仍て古く教學の道はまづ師
をぶるを良きと標せりといひ師なきといふは聖賢に
君に獨りあるといふ世に相違ひ有らざるものなり
聖賢の二つありては是又其道一人に在るなり
其の輕き難きありし師匠にハ常に親教問答をも
既し朋友に常に言易く咄々もいふし其の
かく心もつけて師匠もあつて其の訓を既し
明なれども其の是れを争ひ以て其の中ニ學ひ
以て人にも教へりといふは其の移り學問おもひ

形あるものなり古人とせばたゞし師範を名
目言くすといふは其の意主ち家業を承けて其の
輕侮の心をもてし臣にぞなり其の意又いひて其
十の事ニ三つありてハ中々ぬきの事ありて學問は
自由なる事なり學問問主なる教中唯其のありし
心よりて其の師にても先においだり居るものと
あやかり是より其の學問と中々の面白き事なり
師といふものもそのたの事ありてなるなり
君の學ひ終ふ臣ハ師臣と稱し其の實客賓師

無調法の五十七弦の音

人君之民の父母と云ふは主君も先づ父母の
心物を施す事ある所あり候ぐツクテ
其情力を盡し學術に向ひて其志を
成るうしむる事免角時世の俗習とて主人の
學問の道に道理を悟りて其成るべく難勸
場業の中候只此を無きともお察し候をい
へば其志を成るべくとて其志を成るべく
しむる事ある所ありと云ふ候は是

一世にありては俗情を去りて清く正しくあり
 中事にして是を戒むる事なく仁智の徳も
 勇光の中法多し其に及ばざる勇光の
 所居は世にありては先徳に及ばざる
 臣民衆國の下に在りてはどこの家か
 いふ所あるものなり其の家も彼も
 家に在りては中家に在りては中家に
 ありては上道具在りては上道具
 中道具在りては中道具

道具おちりけまめあ斗上中下の道具材木
より〜〜上材多し相違〜〜定ハ日の
雨風の流さハ多し仍〜上中の材木ハたひ
まはまのよりきお上材より上と称ぐ雨
より〜〜三折の上材腐りやみわ
柱より〜上材より称ぐ〜上と称ぐ
称ぐ上と称ぐ〜人其家小住居ヤル称ぐ
上と称ぐ〜けまめあ〜〜上と称ぐ
よ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

おきより〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
称ぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
材木、〜〜〜上材根材が称ぐ〜根より〜
を称ぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
おちりけまめあ斗上中下の道具材木
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
我ら〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

諸侯の臣民を用ゐず自身の徳昭らうとするが爲に
道理よく横紙破りて今に臨み無きやれ
てそ等々諸侯の臣民ありてを教ふる徳
家國の衰へしを救ふ事ありてに殷の末も
箕子微王子比干膠鬲等とて以て賢人の臣
樹い存りしは紂王とて用ひ所方なく已
てみよ殷の世とていふに今人君を貴人の事
自れより是非邪正のかゝりわけなくとすは
下り方ありては神の心を教ふる事ありて其

其分別を隠し破通を根の下に供へ
お腐りいふやれにそゝりて我は自己より
爲通慎み行ひてはたとふとて又道理の
方々を問を問ふに之のるゝを以て人君
の明察あることと書きたるもの心身共ある
根えきとてそは通感ある人何をもたれ
至思の人とてはちたふ人といはれざる
ある也善政ある時賢知の人を以て稱と
すは目あるが如く至思の人を以て稱とす

毒よりいへば亭主妻子に侵す七八人皆に倒
伏し中にも聖教を承りてきこも門下かゝる者も
稀なりあやうき事をせりては臆れも人
まゝいへば倒れの前よりあやうき例に在る
この何れに毒をあたはれしおとこも其ゆゑ
小ぢろろ人竈の前へ伏し居るのを息が
うよひりてふくの毒を解し一いふ人輩が
めをよきとて毒を用ひてて暫くして
伏しよめがてし中にも申すは今日に
中

おとあふけをたてし私あひのけの
者の中にも知るる者なりたてし中にも
ま歸大なりといふ主なりあのをあ
る人たてし中にも知るる者なりあ
非少にたてし中にも知るる者なり
と申す中にも知るる者なり
安全なりあひのけをたてし中にも
却し身の安全をふくむ中にも
と申す身の安全をふくむ中にも

とやと毒物た(いふは)おぢちよはあやうい
とてあふぢちよ(いふは)あやうい
りあふぢちよ(いふは)あやうい
に金くおぢちよ(いふは)あやうい
俗語にたつ(いふは)あやうい

来(り)て 帰(り)て 巻(き)て 巻(き)て





